

## 会 議 議 事 録

1 会議名	第1回長岡市総合計画策定委員会
2 開催日時	平成26年12月1日（月曜日） 午後3時30分から午後4時50分まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4 出席者名	<p>(委 員)</p> <p>丸山 智 委員長      水流 潤太郎 副委員長      中出 文平 副委員長  阿部 里奈 委員      有本 真由美 委員      遠藤 公一 委員  大井 盛久 委員      神林 茂 委員      鯉江 康正 委員  澤田 雅浩 委員      関 泰明 委員      高野 礼子 委員  年友 要子 委員      二澤 和夫 委員      羽賀 友信 委員  樋口 勝博 委員      樋熊 憲子 委員      古川 貞子 委員  星野 正子 委員      本田 史朗 委員      三井田 由香 委員  村山 道子 委員      結城 和廣 委員      鷲尾 達雄 委員</p> <p>(挨拶のために出席)</p> <p>森 長岡市長</p> <p>(事務局)</p> <p>長岡市                      金子政策監  長岡市市長政策室      近藤室長  長岡市政策企画課      中村課長   里村課長補佐     菊池係長   金子主事</p> <p>(傍聴人等)</p> <p>傍聴人      1名  報道機関      4社5名</p>
5 欠席者名	(委 員) 太田 裕 委員
6 議題	<p>(1) 総合計画及び長岡市総合計画策定委員会について</p> <p>(2) 次期長岡市総合計画の策定について</p> <p>(3) 意見交換（まちづくりの視点等）</p>

7 会議結果の概要	総合計画の位置づけ、策定委員会の役割、次期総合計画の策定方法などに対する事務局からの説明に対して、内容確認と意見交換が行われた。
8 会議資料	<p>第1回次第</p> <p>資料1 総合計画及び長岡市総合計画策定委員会について 長岡市総合計画 策定体制図 長岡市総合計画策定委員会条例</p> <p>資料2 次期長岡市総合計画の策定について 計画策定をとりまくキーワード</p>
9 審議の内容	
委員長	それでは議題（1）の総合計画及び長岡市総合計画策定委員会について、事務局から説明をお願いいたします。
政策企画課長	（資料1に基づき説明）
委員長	それでは議題（1）につきまして、何かご質問ございますでしょうか。なければ次議題（2）の時期長岡市総合計画の策定について、事務局から説明をお願いいたします。
政策企画課長	（資料2に基づき説明）
委員長	議題（2）の説明は終わりました。ご質問等ありましたらご発言いただきたいと思えます。
副委員長	議題（1）にも関わりがありますが、今ほどの説明で広く市民の声を把握してということで、議題（1）のところではこの委員会が、私も市民ですが、市民が入ってくるという話、それからアンケートで市民の声を集めることも、大事なことだと思います。もう1つ、今の資料2でも既存の委員会に総合計画の意見を求めると言われたと思いますが、例えば教育文化や健康福祉、あるいは私の関係するような都市計画と、それぞれ長岡市が常設の審議会、委員会などを想定されていると思いますが、どういうところに実際に年に何回か開かれると思うので、どこにそういう意見を問い合わせるのか、また市民に聞くのかをもう少し明確になるような資料をつけていただきたい。
委員長	事務局どうでしょうか。

<p>政策企画課長</p>	<p>市役所内部での策定会議において、今回の計画づくりにおいては通常の行政分野ごとの分科会ではなく、テーマにそって部局横断的な分科会を設置する方向を検討しております。</p> <p>その中で通常の行政分野で、ご質問の様々な委員会や会議を持っていますが、どういうタイミングでどういう内容を聞いていくことができるのかは、各部局と調整しながら検討します。次回の委員会でははっきりは言えないかもしれませんが、ある程度想定している時期やこういう会議・委員会で聞きたいということを検討します。</p> <p>ただし策定委員会としての諮問としては、この委員会がその役割を担っておりますので、他の委員会では単に意見をお聞きするということになりません。</p>
<p>副委員長</p>	<p>私は策定委員会が決めるというのに反対しているのではなくて、形式的、表面的な市民参加ということではない形にするならば、この策定委員会とアンケート、もしくはパブコメというのだけでは足りないだろうと思います。その理由は、アンケートというのは、どんなにアンケートをしても答える人は限られていますし、パブコメもおそらくそれほど答えていただけないとすると、なるべく市がパイプを持っているいろいろな市民の声を拾えるもの、それが審議会だったり委員会だったり、そういう少なくとも仕掛けを持っているものに対しては、なるべく情報をこまめになおかつ丁寧に流して情報を得て欲しいという意味で申し上げており、手続き論は後でも構わないので、要するにそのような仕掛けをちゃんとつくってほしいという要望です。</p>
<p>委員長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>次回までにはもう少しわかる形で整理した上でお示ししたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>他にございませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>資料2の2ページ目の「その他」のところに2番「中越地域の発展をどのように考えるか」というのがありますが、どのようなエリアを範囲とするのか、漠然とこの中越地域がもう少し具体的に示されていないと、なかなかその関わりなどについて今後議論できないという気がしていますので、その辺の棲み分けをちゃんとしていただいたほうがよろしいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>では事務局お願いします。</p>

市長政策室長	<p>広域ということで以前は13市町村でやらせていただきました。今も定住自立圏等々では見附・小千谷・出雲崎といった市と町を入れて旧来どおりの枠組みでやらせていただいております。ただ今回人口減少問題という問題を考えていくと、それだけでは足りなくなってきた、魚沼とか十日町あたりも広域的に連携しなくてはいけないと思います。市長が言いますのは市町村「競調」、競争して調和する、という意味ですが、そういった面もありますので、もしかしたら魚沼や十日町あたりまで入ってくるのかもしれませんが、次回以降にはこの枠組みというのがわかるようにしていきたいと思います。</p>
委員長	<p>いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>はい。</p>
委員長	<p>他にございませんでしょうか。  それでは続きまして議題（3）意見交換に入らせていただきます。  本日は第1回目の会議でございますので、今回の計画策定やまちづくりへの思いなどを述べていただきたいと思います。それではお願いします。</p>
委員	<p>公募により委員になりました。結婚を機にこちら長岡に移住して参りました。中山間地の暮らしや魅力・宝物を発信しております。長岡で子育てをしながら気づく点が少しずつ生まれてきています。長岡の農業・食の魅力をよそ者の視点で発掘いたしまして、それをイベント・ツアーなどを通して発信する団体のメンバーにもなっております。皆様のご経験や知識などを学ばせていただきながら私なりの視点も交え、いい長岡になればと思います。</p>
委員	<p>子育て中の方、障害を持った方、あるいはこれから私たち皆が歳を重ねていく中で、子どもがいても、障害を持っていても、歳を重ねても、いろいろな立場の人が住んでいるこの長岡で、どんな人もこのまちに住んでいてよかったと思えるよう、皆さんの思いを少しでも総合計画に反映できるように勉強させていただき、皆さんのいろいろな知識も拝見しながら少しでもお役に立てればと思い参加させていただきました。</p>
委員	<p>地域活性化・市民生活の向上というものは金融機関にとって切っても切れない関係でございます。そういう立ち位置の中で、個人的に、長岡市は素晴らしいものづくり、農産物をはじめとして素晴らしい素材があり、山あり海</p>

委員	<p>あり長岡花火ありということでインバウンドありと、いろいろな立場の中でいろいろな局面で、まだまだ伸びしろが多くあると感じております。その中で金融機関も地域経済活性化や若者の定住、地域づくりまちづくりに携わらせていただきまして、もっともっとワクワクするような長岡市になっていただきたい、それが我々金融機関にとっても非常に良い関係になると考えております。</p> <p>シティプロモーションというと、どちらかというと外に発信するというところだけに目が行きがちですが、最近やっていて思うのは、長岡市内が広くなり私たち自身も少し相互理解を怠っていて、各地域でいろいろなことを地道にやっておられる方の内部的なものを充実させていくということも非常に大事であります。このたびのミ・アモーレプロジェクトの中で、「故郷はひとつ」という歌を宇崎さん阿木さんに作っていただいた際に、参加者に一言ずつ参加してもらった意味合いを聞いてみたり長岡の良さを聞いてみたりすると、意外と東京に出てから故郷に帰ってくる人たちというのが非常に多いと感じました。東京という中であって、花火や長生橋を思い浮かべたのではなくて、日ごろ自分たちが生活していた玄関から見た田んぼや山という、我々の思いもつかないところに故郷を感じているということ、そしてまたおじいちゃん・おばあちゃんなどといった人たちのことを感じて、やはりまた故郷に帰ろうという人たちがたくさん長岡に在るということを感じました。これはまさに内部を充実しているシティプロモーションの1つだと思います。</p> <p>こういう会議にいくつか出させていただくと、子ども・若者・次世代の子と申しますけれど、そういう子どもたちの意見が入っているのかどうかというのが今後の課題になるのではないかと思います。わかりやすい問い方でないと答えにくいので、その仕掛けはいろいろあると思いますけれど、ぜひこういった会議の中に若者たちの意見、私たちが30歳なり40歳になったらどうなのか、というようなことを聞けるような機会も与えてもらえればいいなという意見です。</p>
委員	<p>まちなかに「まちの駅」というのがあります。全国に1700箇所あって新潟県に125あります。その中でうまくいっているのは、江戸川区あるいは本庄、特に本庄は児玉と合併しましたが、非常にうまくいっています。やはり市民を巻き込んで地域を盛り上げていくことが非常に大事ではないかと考えております。</p> <p>もう1つ、北陸新幹線ができた後の経済効果をずっと追いかけてきている</p>

委員	<p>わけですが、長野新幹線ができたときに実は上越新幹線は5本運行を減らされています。今回北陸新幹線は金沢まで行きますので、この長岡がどういう役割を演じていくのかをやはりしっかり考えないとまずいのではないかと考えております。</p> <p>今回地方自治法が改正になり、総合計画が法定計画でなくなり任意計画となりましたが、それでも長岡市は作るとおっしゃっています。その意味、可能性というのをぜひ今回の総合計画に込めたいと思います。</p> <p>長岡市は900km<sup>2</sup>あって、このまま人口25万人ほどになるとそれほど人口密度が高くなく暮らしていけるまちということです。山あり海あり川ありということで、自然環境も多様です。震災がなくて合併していたらまちの真ん中に長岡市があってその周辺に合併市町村があるという構図だったと思うのですが、この10年でその動きがすごく変わってきたという実感がございます。旧長岡市の人も周辺の地域に週末などに通ったりしている現実もありますし、いわゆる多様性や流動性は長岡がこの10年で獲得したものだと思っています。それをどのようにより強固なものにしていくかということ、それが地域の資源をより活用しながら新しい長岡市を次につなげていくことになると考えています。</p>
委員	<p>今、農業の1番の問題というのは、価格が下落して農業の経営の面が非常に大変になっている点です。一昨日も「長岡うまい米コンテスト」を開催しまして、本当に皆さん熱意を持ってこの地で取れた米をうまいものを発信しようということで頑張っております。米菓の発祥は米どころのものを加工して世に出したというのが始まりではないかと思いますが、どうしても人口が減少し米の消費も減っていく中で、この長岡の地で根ざした食品加工メーカーさんとうまく連携しながら、また、この長岡の農業が発展していければ、それをこの5年10年でやっていければ、なんとか自分たちの次の世代がまた担ってくれるんじゃないかと希望を持って農業に携わっております。合併しまして山古志・川口の中山間地から海沿いの寺泊まで、非常に長岡は広く観光的にも立地のあるところなので、それとうまく連携した誘客等も今後考えていく必要があるのではないかと考えております。</p>
委員	<p>現在長岡市は子育て、子育てを応援しようということで、何十人かの委員さんが集まってこの住みよい長岡でどう子育てしていくか、いきいきと子ども自身が良く育つかということ、いろいろプランを練っております。そちらの方からも意見を出して長岡市を良くしていきたいと考えております。</p>

委員	<p>人口減少傾向の中で絶対数が日本全体で減る方向でございますので、長岡だけ増やすということは極めて難しいだろうと私は思っていますが、地域を活性化して保っていくにはやはり交流人口をどういう風に増やしていくか、いくつか手段はあると思いますが、観光という面の切り口でそれをやっけないかと思っております。よく申し上げていますが、観光というのはホテルや土産物の業者、レストランやタクシー、バスなど、そういった関係業者が儲かるかどうかというレベルの話ではなく、地域全体として交流人口を増やすための手段を考えて地域全体で観光を考える時代だと思っております。</p> <p>その代表例と言ってはオーバーかもしれませんが、震災以降山古志は住民の方々の活動もありましたいろいろな工夫をされています。「自分たちで闘牛を楽しむ」というところから「お客さんに見せる、お客さんからきてもらう」という風にガラリと変わってきたような気がいたします。そういうことを全地域に広げていったら交流人口が増えるのではないかと、この総合計画の中にそういった考えが少しでも反映できればと考えております。</p>
委員	<p>「全国・世界中・全世界から訪れたい長岡にするには」というのに非常に興味がありまして、意外と知られていませんが長岡には研修員がたくさんきております。その存在は非常に我々にとっては大きな財産だと思いますが、今のところ全く活用されていない。受け入れてただ国に帰ってしまう、これはもったいない話で、国に帰られると大臣になったりする偉い人がたくさん来ておられる。そういうネットワークをどのように活かすかということと、人を呼ぶにはそこにしかないものをどういう風に我々が大切に思うか、という思いを伝えていって、それが形になっていくのが観光ではないかなと思っております。</p> <p>地域づくりというのは、「そこに居場所があって出番がある」というのが1番健全に進むのではないかと思っていますので、そういう視点から協力させていただきたいと思っております。</p>
委員	<p>復旧復興の節目の10年の中で来年11年目以降、全市をあげた、市外・県外・世界に訴える復興という部分が、我々自らがこれから口にすることができなくなってくるんじゃないか、そういった大義を長岡市が失った中で、これから何を目指し全市をあげた形で市外・県外・世界に対してどう発信していくのかというところは非常に問題を多く抱えていると思っております。</p> <p>この10年の中で私どもが感じたことで子どもたちに常々申し上げているところは、1人1人の力は小さくともたくさんの方、大勢の方が集まると大</p>

	<p>きな力になるということです。まさしくそれが復興の象徴であるフェニックスの姿ですけれども、そういった10年間で積み上げたものを来年以降に活かせるようなまちづくりを総合計画の中に盛り込んでいただきたい。また1つの地域の誇りと思えること、これはいろいろな地域とお話をさせていただいても、どこも「長岡市はすごいね」「花火すごいね」「地域の誇りになるものがあるといいね」と言われます。他の地域は自分たちの誇れるものが何もないそうです。この10年の中で長岡市が非常に活発に活動しているところが、他の市が非常にうらやんでいるところです。そのため、子どもたちが誇りに思えるようなまちということで花火というツールは非常に大切なツールです。長岡市全市をあげてもそうですし、市外・県外これから世界に打って出ることになりますけれど、この大きな花火という部分をこれからのシティプロモーションやこれからの子どもが夢を描けるまちづくりに役立てていきたいと考えています。</p>
委員	<p>男女共同参画を耳にしたりすると皆さん「えー」っとおっしゃりますが、今も話をお聞きしている活動全て男性も女性もみんな一緒に活動されています。しかしなかなか今まで女性の声を聞き取っていただけなかった、参加するツールがなかった、女性たちが消極的な部分もあったかもしれませんが、出てきて話をしましょうと言うところまで機会が与えられなかった部分も多かったと思います。女性たちが1番その生活の視点の中で困っていることや問題点が多くあるところをこの総合計画の中に反映したい。今後10年、女性たちが輝くのではなく男性も女性もいきいきと生きられるような社会にしていくためにどんなものがあるか、男性の方が家庭で奥様にお聞きした内容でも良いと思いますし、私どもも10年先を見通して、男性も女性も自分の能力・個性を發揮できる社会をつくっていけるような活動につなげていきたいと思っております。ぜひ長岡市の総合計画の中にもこの男女協働参画を網掛けて、すべての活動に男性も女性もというところを皆さんに検討していただきたいと思っております。</p>
委員	<p>大学卒業後、8年間長岡を離れた時期がありました。8年たって長岡に戻ってきた時、離れる前と比べて長岡のまちが元気になっていると感じました。こちらに戻ってきて子育ても始め、自分自身がいろいろなことに興味を持つようになったのも1つの理由だと思うのですが、この計画もそのように長岡が素敵になるための計画だと思いますし、それに参画できうれしく思っております。</p>



委員	<p>子どもたちが都会に出ても、「また長岡に帰ってこよう。」と戻ってきてくれることを私たちは願っております。</p> <p>また、地域には私よりも大先輩の高齢者がいっぱいおります。私がそれでも若い方になっておりますので、その高齢者をどのように活躍してもらおうかと、おじいちゃんやおばあちゃんの意見を吸い上げ、地域の発展を本当に考えたいと思います。</p>
委員	<p>今、障害者の施策や高齢者の福祉計画に携わっておりますが、福祉というのは、その施設や団体ではなく、共に生きている、共に生活をする、共に支え合う、そんなイメージでおります。誰もが健康でありたい、安心安全でありたい、ぬくもりのある地域社会でありたい。それがやはり地域での生活ではなかろうかと思っています。先ほど市長さんも「大きい目標」とおっしゃいました。例えば介護保険など、いろいろな事業としての課題に対して進んでいきますので、大きい目標をつくりながら事業が進んでいくことを願っております。</p>
委員	<p>環境教育の分野で小学校や中学校に関わらせていただいております。県内あちこち参りましたが、廃校になる学校あり、空き教室あり、やはり人口減というのを痛切に感じているところです。今回いただいた資料の中でも長岡市の人口推計の資料を見ますと、やはりこれは切実な問題だと感じております。ハード面ソフト面いろいろ充実して、子育てがずいぶん変わって少ししやすくなったと実感しております。</p>
委員	<p>製造業なりに、若者が定着しない問題など、商工会議所の会議の中でいろいろな問題を議論しております。皆さんのお知恵を借りながら、また私どもで「こんなことをしたらいいんじゃないか」という提案も含めて、長岡市に若い人が喜んで住めるようなまちになればいいなと思っております。</p> <p>私は娘たちが新潟市におりますので本当に切実に感じるのですが、新潟市より長岡市が良いなと感じる最大の点は、長岡のほうが東京に30分早くつけるといことです。仕事をしていると非常に助かることなのですが、それを切実に感じていらっしゃる方が市民にどれほどいるのかと思います。長岡が本当に良いところだということをもっともっと発信できる場所があるのではないかと考えております。</p>
委員	<p>評価というのは非常に大事だと思っております。計画を立てるときに、現在取り組んでいるいろいろな施策をきっちりと評価できるか、それをしつか</p>

委員	<p>りと見た上で次の計画に結び付けていく。これを手抜きするとやはりだめなのではないかと思います。目標として設定されているものが方策であったり、達成目標の基準・目標値の根拠が曖昧だったりするところがあるので、そんなところを見ながらまた意見を言えればと思っております。</p> <p>また教育のほうに主に関心をもってきているのですが、長岡の夢づくり教育というのをやっておりまして、市長さんが言われたように、将来の長岡の明るい展望を開くには次世代を担う子どもの教育をどうするか、子どもをしっかり支えていく大人たちの社会教育等々を、いかに特色を持ってやっていくかというのは非常に大きな意義があることと思います。</p> <p>子どもたちのために情熱的に一生懸命部活動の指導等をされている先生たちと接する機会があり、こんな素晴らしい先生方に子どもがお世話になっている、素晴らしい先生が多いと思っている一方、良い先生が講師のままで正式に採用されていなかったり、熱中感動しない先生がいたりして、もっともっと教育の場が変われば子どもたちが変わる、子どもたちが変われば長岡も変わるのではないかという思いで参加させていただきます。</p>
副委員長	<p>子ども2人が生まれたのは東京ですが長岡で育てました。子どもを長岡で育てようと妻と決めたのは、子育てする環境が極めていいと感じたためです。</p> <p>先ほど事務局の説明で人口減少は夢がないことが多いと言われました。私はそうではないと思っています。何もしなくても人口が減ると、「1人あたりの公園」とか「1人あたりの〇〇」というのは増える。もう10年以上も前に人口減少社会という本の中でそれは言われていて、実際に人口減少を逆手にとって豊かな生活をしている自治体もあります。ただ「そして誰もいなくなった」というのはやはり問題なので、人口が減ったら減ったなりにそれなりに豊かにやっていける、というのが大事なのだと思います。</p> <p>私は旧長岡市ではありますが、子どもが出た小学校は1年生から6年生が110名くらいだったのが60名くらいまで減っています。まだ学校の統廃合はありません。ただ周辺ではもう統廃合しなければいけなくなっていて、しかし地域の核として昔からあった小学校は地域の宝だったので、昔からの小学校をどうやって使っていくのか等を考えて努力されている自治体はいっぱいあるので、人口減少社会の中でのまちづくりに役立てたいと思っています。</p> <p>私自身は人口減少社会の土地利用という点で、これから人口が減っていく中で人が使う土地はこれ以上いらないと思っています。この都市的土地利用</p>

副委員長	<p>をコンパクトにして、どう農業的・自然的土地利用と折り合いを付けていくか、ということが私のライフワークになっており、そういうことで10年前の総合計画からお手伝いをしております。</p> <p>長岡は多様性がある魅力に富んだまちだと思っています。中心市街地があってすぐそばに信濃川の大きな風景があって、これだからこそ花火ができるんだと思いますが、そして田園・里山がある。こういう地域というのは全国にもなかなかないんだろうと思っています。私は父が転勤族で小さい頃から転々としてまいりましたが、長岡のような多様性を持った地域・まちというのはそうないなあというような実感を持っております。だから、長岡の人たちはもっこの魅力に気づき、誇りを持って「長岡はいいよ」と言えばいいのになと思っています。やはり長岡の魅力というのは都会性、都会性と田園性がミックスされたところ、近いところに存在する、というところにあると思うので、そういう面からもっと都会性に焦点を当てて描けるようなそんな長岡になってくれたらと思いました。</p> <p>それから話が変わりますが、造形大学は公立大学になって、6割以上の学生が県外から来るようになりました。大変これまた多様性が生まれ活気が生まれていいなと思っているのですが、そうした学生も含めて大学生たちが長岡のまちの印象をどうみているのか、長岡のまちがどうあってほしいと考えているのか、これをぜひ丁寧に、つぶさに聞いてみたいなあと思っています。そういう機会をぜひ、事務局でやっていただければと思っています。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それぞれ皆さん方がいろいろな視点でお話いただきましてありがとうございました。今後議論を深めていく上で大変参考になるのではないかと思います。</p> <p>それではこれまでの各委員の発言や事務局からの説明について各委員から何かありましたらご発言いただきたいと思います。</p> <p>それではご発言がないようですので、私のほうから。副委員長はじめ各委員のほうからまちづくりの思いを述べていただきました。大変ありがとうございました。このように幅広い分野の皆さんですので大変心強いと思いました。今後とも議論をよろしくお願い申し上げたいと思います。</p> <p>本日予定していました議論はこれにて終了いたしました。これより進行を事務局にお願いしたいと思います。</p>
市長政策室長	<p>ありがとうございました。</p>

政策企画課長	<p>それでは最後に、今後の会議日程について、事務局から説明させていただきます。</p> <p>(第2回の開催日程を確認)</p>
市長政策室長	<p>本日は貴重なご意見を本当にありがとうございました。以上を持ちまして、第1回長岡市総合計画策定委員会は閉会いたします。どうもありがとうございました。</p>